

1. 学会の目的

「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的とする。」

・災害発生時の緊急対応はもとより、復興や減災対策のため、災害と向き合ってきた地域の地理と歴史を踏まえ、継続的に農業が営める条件を整備し、住民が共同して地域を管理することで減災社会が実現し国土保全に貢献することを基本としている。4月末で会員数は9,694名。

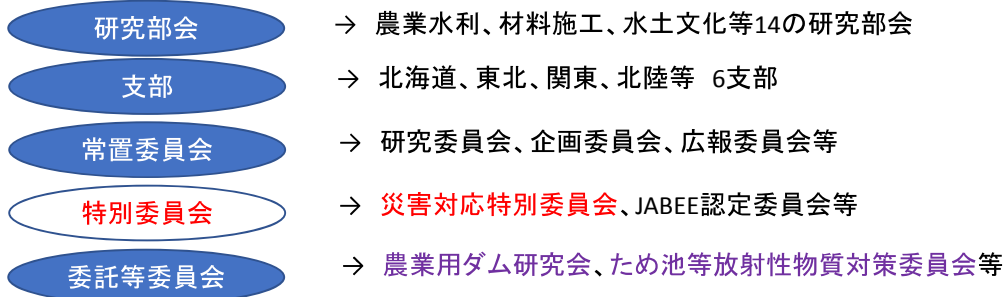
目標

- ・耐震技術の開発
- ・減災技術の開発
- ・除塩等農地再生技術の開発
- ・農村コミュニティ機能の再生



2. 体制

学会活動は、14の研究部会、6の支部、企画・運営の基本を担う常置委員会、災害時等の対応を行う特別委員会、及び公益性の高い委託業務を行う委託等委員会により運営されている。



災害時は、災害対応特別委員会に対策本部を設置し、被災状況を調査し、二次災害防止などの調査・研究を行っている。また、耐震対策や復興対策のため、受託等委員会があり、相互に連携を図っている。

3. 最近の活動

- 平成28年4月 熊本地震対策本部
- 平成28年9月 台風10号対策本部
- 平成29年7月 九州北部豪雨災害対策本部
- 平成29年10月 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会参加

4. 連携状況

